

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で普通に暮らしていくことの継続性を支援する理念を作りあげた。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域交流を図りながら、理念を具現化出来るよう日々のケアの中で意識付けを行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	グループホーム見学時や入居時に話題にあげ、話をしたり、地域行事に参加の際は、グループホームでの日々の様子を話している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事に参加したり、ホーム行事を地域へ案内したり、また近隣公園に日常的に出掛ける等し、つきあいの場が広がるよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して回覧板のやりとりをしている。地域のボランティアや小学校と交流している。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域の高齢者事情について話し合いを持って、ホーム行事への参加を呼びかける等して取り組みに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	役員会議やスタッフ会議等で報告し、ホーム運営に反映できるよう改善計画を立て取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な職種の方にメンバーをお願いし、2ヶ月に1回定期開催をしている。そこで出された意見やアドバイスやアイデア等を参考にサービスの質の向上に繋がられるよう取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定更新時に市担当者へグループホームの見学を勧めたり、グループホームの日々の様子を伝え連携に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会のテーマにしたり、外部研修に参加する等し理解に努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会のテーマにしたり、外部研修に参加する等し、職員全体で周知徹底に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語を用いず簡単な言葉を遣い、分かりやすく説明することに努めている。ご家族が性急な決定をしない様、時間を取って対応することに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、介護相談員に来て頂き入居者の相談にのって頂いている。 ホーム行事の内容、食事やおやつメニュー等、入居者のリクエストを聞き実践している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム来訪時、連絡帳や写真等を使い日々の暮らしぶりを報告したり、毎月の請求書にホーム便りを同封し、ホームの様子を伝えている。金銭管理は個人別に入払い簿をつけ、ご家族に確認サインを頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期に家族会を開き、意見・要望・相談等を聴くように努めている。ホーム来訪時には、必ず声をかけ話をしやすい雰囲気作りを心がけ、意見・要望等をホーム運営に反映させるよう努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議や定例ミーティング等で職員から意見・要望・提案等を聴き、ホーム運営に取り入れている。 入居決定に関しては、職員の意見も聴き調整している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態変化や緊急時に即応できるよう人材を確保している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員をなるべく固定化し、より馴染みの関係が継続出来るよう努めている。新人職員が就く場合は、入居者一同に紹介している。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢を不問にし幅広い年齢層から採用している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習に参加したり、ミーティング等で折にふれ話をする機会を設けている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画をたて職員の熟練度、習熟度等により参加させている。 研修受講後は、定例会議の場で報告会を実施している。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック間で管理者同士、一般職員同士で、交流・親睦を図り、サービスの質の向上にお互いに協力・協働している。他のグループホームを訪問している。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を確保している。他のグループホームとの交流・親睦の場を設け気分転換を図れる機会をつくっている。職員の体調や悩みを把握するよう努めている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	代表者は、頻繁にホームに顔を出し、入居者や職員に接している。 資格取得に向けた支援を行い、取得後は昇給に反映させている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を把握するよう努めたり、ご希望があれば体験入居をして頂き、本人と職員の関係作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をとって、ご家族から意見・要望・相談等を聴き、グループホームとしてどのような対応が出来るか説明している。 ご家族の状況を把握し、信頼関係の構築に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のグループホーム、他の介護サービス事業所等の情報提供を行っている。性急な決定をさせない様、複数回の面談や相談をする機会を作っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を案内したり、ホーム行事等へ招待し、雰囲気に慣れて頂けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に役割を持って頂き、入居者同士の協働や入居者と職員の協働を通し、互いに支え合う関係を築くよう努めている。また、ホーム行事を企画する際等に入居者の意見を取り入れて、一緒に暮らしているという想いを持って頂くように努めている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の考えや想いを受止め、ご家族と情報を共有・協働し、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族来訪時に入居者の日々の暮らしぶりを報告したり、ホーム行事に参加して頂いたりして、入居者とご家族の関係性の継続を支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人・友人等と継続的な交流が出来るよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	役割活動を通じて、入居者同士の関係が円滑になるよう支援するとともに、入居者同士が助け合うことを見守っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後もホーム行事の案内を出したり、退去先に訪ねたり、また、ご家族の相談に応じたりし関係性の継続に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、入居者の希望を把握するよう努めたり、入居者の言葉や表情からその時その時の気持ちを汲み取るように努めている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族から聴き取ったり、入居後は、日々の関わりの中から話を聴き、把握に努めている。	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズム、生活習慣を把握し、全体像をつかむよう支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で意見を出し合ったり、モニタリングやカンファレンスを行っている。ケア記録に入居者の日々の言動や気付きを記録している。	入居者の言動やケアの気付きをケアプラン作成に活かしていく。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別に評価表を作成し、入居者の状態変化や状況に応じて、ケアプランの見直しを行っている。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに日々の状態、状況を記録し、全職員で情報を共有している。また、ケア記録をもとにプランの見直しや評価を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態やご家族の状況に応じて、医療機関受診を支援している。提携医療機関の協力によりPTが訪問し、入居者に歩行や座位についてアドバイスをしたり、マッサージを施行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が、安心して地域での生活ができるよう、各協力機関と普段から連絡を取り合い連携を図っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域ボランティアに来て頂いたり、市民センターに出掛けたりしている。訪問理美容のサービスを受けている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や情報提供等により、協力関係を構築している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他、入居前からのかかりつけ医で医療サービスが受けられるようご家族と協力し、通院介助を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関を始め、複数の医療機関と連携し健康管理に努めている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師と緊密な連携を図り、入居者の健康管理、医療面での支援を行っている。 職員に看護師を配置し、入居者の健康管理や状態に応じた支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携医療機関の定例会議に参加し、常時、情報交換を行い、主治医や看護師、ソーシャルワーカー等に相談できる体制が構築されている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する書類を整備し、入居時に説明している。医療機関とホームで可能な対応について協議、検討している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意思・意向を踏まえ、緊急時・急変時に柔軟に対応できるよう医療機関と連携を図っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活習慣や支援の内容等の情報提供・交換を行い、連携を図っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やスタッフ会議で、職員の意識向上を図るとともに、個人情報の取り扱いや守秘義務について周知徹底を図っている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりに応じた声かけを行い、本人に決定して頂く、場面作りを工夫・演出している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとり、その時その時の体調・気持ちを把握し配慮しながら個別に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者個々の生活習慣を把握し、本人の意向や希望を尊重している。職員は、さりげない支援を心掛けている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前に入居者がおしぼりの準備をしたり、配膳の手伝いをしたり、また嚥下体操や献立の発表をしている。食後は、スタッフと一緒に後片付けや食器洗いをしている。行事や記念日の際は、特別メニューを準備している。(赤飯、パースディーケーキ)		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好物を把握している。おやつや飲み物等は、入居者のリクエストに応じている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導を心掛けている。居室にトイレを設置し、プライバシーに配慮している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の中には、入浴を拒否する方もいるが、言葉かけを工夫したり、スタッフを代えて対応している。		ホームやスタッフの都合に合わせてではなく、入居者のその日その日の気持ちや希望に沿った入浴支援を心がける。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、活動を促し、生活のリズムが整えられるよう支援している。寝つけない入居者には、添寝をしたり、話し相手になったりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴から一人ひとりの得意なものを探り出し、おしぼりの準備、掃除、洗濯、炊事、食器洗い、縫い物、草取り等入居者が出来る仕事をお願いし、労をねぎらい、感謝の言葉を伝えている。各月の行事では趣向を凝らして、楽しみごとを演出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、個別に対応している。ご家族の協力で少額の金銭を持っている入居者もいる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を感じられる様、日頃から近所に散歩に出かけたり、天気の良い日は、ドライブに出掛けている。		職員主導でドライブ先や行楽先を決めるのではなく、入居者の行きたい先を探り出し支援していく。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外泊・外出される時は、準備支援をしたり、その場合の注意する点、介護方法を伝えている。 お花見、紅葉狩り、ドライブ等、ご家族にも案内をし参加を勧めている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は、直接本人に手渡し、入居者の希望に応じて、日常的に電話をかけたり、手紙を出せるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者が気兼ねなく過ごして頂ける様、居室に椅子を準備したり、多目的ホールを利用して頂いている。 職員は、いつも笑顔で迎えるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、所内研修のテーマにしたり、また、日々の点検等により全職員間で共通認識を持っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が出て行きそうなときは、さりげなく声かけ一緒についていく等、支援している。一人ひとりの行動パターンを把握している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の動向・状況を把握し安全面に配慮している。夜間は、すぐに対応できるよう、夜勤者は、自分の居場所を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態・状況を把握しながら、一人ひとりケースバイケースで対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを整備している。 ヒヤリハットを利用し、スタッフ会議等で個別の予防対策について話し合いを持っている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備している。 年1回、救急救命講習を実施している。		定例で緊急時、急変時、事故発生時等の対応について訓練を実施する。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回火災訓練を実施している。 地域と協力体制ができています。		火災に限らず、自然災害も考慮して避難訓練を実施する。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて、入居前後にご家族に説明をしている。 一人ひとり、予想されるリスクについて検討し、スタッフ会議で話し合い、リスク対応について見直しを行っている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い、状態に応じ医療機関の受診を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで一人ひとり、薬を管理し個別ファイルで内容を記録、把握している。服薬時は、きちんと飲んだか、声かけし二重三重のチェックをしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫や適度な運動により、自然排便ができるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯みがきや口腔洗浄剤を使い口腔ケアの支援を行っている。入れ歯の管理・手入れを個別に支援している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一人ひとりの飲食の摂取量・状況を記録している。毎月、体重測定をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備している。 入居者、職員共、インフルエンザ予防接種を受けている。毎月、調理に携わる職員は、検便を行っている。ペーパータオルを使用している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は、定期に衛生検査を実施している。定期に水質検査を実施している。食材はその日のうちに使い切っている。毎回、検食を採っている。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りにプランターを置き、季節の草花を植えている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室の入り口に花を活けたり、また、共用部分の装飾は、季節感を出すよう工夫している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールや食堂にソファを置いたり、玄関にベンチを置いたりして、一人でくつろいだり、仲良しさん同士で過ごすスペースをつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自由な空間づくりが出来るよう配慮している。入居前から使い慣れた物を持ち込んで頂いている。居室は、火気の使用以外は、原則自由になっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の温度は、入居者の体調に合わせて調節している。消臭や気分転換にアロマを使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに対応している。居室のトイレは、車椅子対応にしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に表札を付けたり、トイレの入り口に目印を貼ったりして、環境整備に努めている。		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気のいい日は、玄関先にベンチを置いたり、ウッドデッキを利用し、日向ぼっこをしている。水遣りができるような草花を植えて、活動できるような環境づくりをしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

意思疎通が困難な入居者には、場面場面で必ず声かけし表情や気持ちを確認・推察しようとしている。

各居室にトイレを設置し、個人のプライバシーに配慮している。

食事形態に細かく配慮し、個々に応じて対応している。

毎回、趣向を凝らしたホーム行事を開催している。

ご家族は、ホームに自由に泊まることができ、入居後も家族の絆を大切にしている。

近隣小学校と親交があり、子供たちが、放課後や土・日にホームを訪ねる等、恒常的に交流が行われている。

提携医療機関の協力により、定期的な訪問診療や病院P Tによるホーム内でのリハビリを実施し、日々の健康管理や体調管理に努めている。